

7 経営成績について（税抜き）

当年度の経営成績は、次のとおりである。

(1) 水道事業会計の損益の状況

（単位：円）

科 目		水道事業 (A)	鶴形簡易水道事業 (B)	合計（水道事業会計） (A) + (B)
営業 収益	給 水 収 益	719,656,745	7,057,314	726,714,059
	その他の営業収益	38,115,101	21,000	38,136,101
	計	757,771,846	7,078,314	764,850,160
営 業 費 用	原水及び浄水費	131,361,546	1,120,000	132,481,546
	配水及び給水費	47,231,674	1,319,051	48,550,725
	業 務 費	92,508,956	493,157	93,002,113
	総 係 費	24,140,401	4,500	24,144,901
	減価償却費	287,763,457	2,657,242	290,420,699
	資産減耗費	1,223,343	0	1,223,343
	計	584,229,377	5,593,950	589,823,327
営 業 損 益		173,542,469	1,484,364	175,026,833
営業外 収益	受 取 利 息	0	0	0
	他会計補助金	22,098,961	1,066,340	23,165,301
	雑 収 益	1,202,946	0	1,202,946
	計	23,301,907	1,066,340	24,368,247
営業外 費用	支 払 利 息	187,872,296	1,938,800	189,811,096
	雑 支 出	1,528,271	567	1,528,838
	計	189,400,567	1,939,367	191,339,934
営 業 外 損 益		-166,098,660	-873,027	-166,971,687
経 常 損 益		7,443,809	611,337	8,055,146
特 別 損 益		-11,255	0	-11,255
純 利 益		7,432,554	611,337	8,043,891

水道事業会計の当年度純利益は、水道事業が7,432,554円、鶴形簡易水道事業が611,337円で、合計で8,043,891円となっている。

また、水道事業会計の純利益の推移は次表のとおりである。

（単位：円）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
純 利 益	57,755,523	28,691,843	22,176,888	27,295,329	8,043,891
前年度比較	-13,921,048	-29,063,680	-6,514,955	5,118,441	-19,251,438
増減率（％）	-19.4	-50.3	-22.7	23.1	-70.5

※平成18年度から鶴形簡易水道事業分を含む。

当年度の純利益は、前年度に比較して大幅に減少した。これは、水道事業における濁りの発生により、給水収益が前年度同期比（7月、8月）で約17,000千円減少したことと、営業費用で、対応のための時間外手当、料金通知発送費用等により約6,000千円増加したことが主な要因となっている。

(2) 水道事業の損益の状況

(単位：円、％)

科 目		20年度 (A)	19年度 (B)	比較増減 (A)－(B)	増減率 $\frac{(A)-(B)}{(B)} \times 100$
営業収益	給水収益	719,656,745	744,948,634	-25,291,889	-3.4
	その他の営業収益	38,115,101	40,191,246	-2,076,145	-5.2
	計	757,771,846	785,139,880	-27,368,034	-3.5
営業費用	原水及び浄水費	131,361,546	124,891,893	6,469,653	5.2
	配水及び給水費	47,231,674	60,922,187	-13,690,513	-22.5
	業務費	92,508,956	90,892,373	1,616,583	1.8
	総係費	24,140,401	28,097,636	-3,957,235	-14.1
	減価償却費	287,763,457	279,578,775	8,184,682	2.9
	資産減耗費	1,223,343	869,792	353,551	40.6
	計	584,229,377	585,252,656	-1,023,279	-0.2
営業損益		173,542,469	199,887,224	-26,344,755	-13.2
営業外収益	受取利息	0	0	0	—
	他会計補助金	22,098,961	24,856,754	-2,757,793	-11.1
	雑収益	1,202,946	942,089	260,857	27.7
	計	23,301,907	25,798,843	-2,496,936	-9.7
営業外費用	支払利息	187,872,296	194,167,507	-6,295,211	-3.2
	雑支出	1,528,271	2,516,316	-988,045	-39.3
	計	189,400,567	196,683,823	-7,283,256	-3.7
営業外損益		-166,098,660	-170,884,980	4,786,320	2.8
経常損益		7,443,809	29,002,244	-21,558,435	-74.3
特別損益		-11,255	-1,723,195	1,711,940	99.3
純利益		7,432,554	27,279,049	-19,846,495	-72.8

水道事業の営業損益は173,542,469円の利益で、前年度に比較して26,344,755円（13.2％）の減となっている。この主な要因は、前述のとおり濁りの影響によるものである。

営業外損益は166,098,660円の損失で、支払利息が減少したことなどにより前年度に比較して4,786,320円（2.8％）損失額が減少している。

この結果、特別損失11,255円を差し引くと、当年度純利益は7,432,554円となり、前年度に比較して、19,846,495円（72.8％）の減となっている。

①営業収益

給水収益の決算額は719,656,745円で、前年度に比較し25,291,889円（3.4％）の減である。この主な要因は、濁りの影響によるもののほか、給水人口の減少による落ち込みなどによるものである。

その他の営業収益の決算額は38,115,101円で、前年度に比較して2,076,145円（5.2％）の減となっている。この主な要因は、下水道使用料徴収に係る受託収入2,728,764円の増のほか各種手数料及び消防補償金等4,804,909円の減などによるものである。

給水収益の年度別推移は、次表のとおりである。

(単位：円)

	1 6 年 度	1 7 年 度	1 8 年 度	1 9 年 度	2 0 年 度
給 水 収 益	747, 227, 955	750, 492, 317	740, 712, 294	744, 948, 634	719, 656, 745
前 年 度 比 較	3, 378, 447	3, 264, 362	-9, 780, 023	4, 236, 340	-25, 291, 889
増 減 率 (%)	0. 5	0. 4	-1. 3	0. 6	-3. 4

②営業費用

営業費用の決算額は584, 229, 377円で、前年度に比較して1, 023, 279円（0. 2％）の減となっている。営業費用の主な内容は、人件費（給料・手当・法定福利費）41, 826, 770円のほか、修繕料26, 940, 643円、委託料207, 653, 659円、減価償却費287, 763, 457円などである。

前年度からの増減の大きかったものは、動力費が33, 250, 449円の減、薬品費が17, 225, 154円の減、委託料が66, 626, 157円の増等であるが、これは、当年度から動力費及び薬品費の支払いを浄水場維持管理業務委託に含めたことによるものである。

③営業外収益

営業外収益の決算額は23, 301, 907円で、前年度に比較して2, 496, 936円（9. 7％）の減となっている。この内容は、一般会計からの補助金22, 098, 961円と雑収入である。

一般会計からの補助金の内訳は、次表のとおりである。

(単位：円)

項 目		金 額
第 二 期 拡 張 事 業 に 係 る 消 火 施 設 相 当 分		17, 619, 000
花 園 町 配 水 管 布 設 相 当 分		167, 486
木 材 工 業 団 地 配 水 管 布 設 相 当 分		1, 008, 568
山瀬ダム建設負担金に係る利子相当分	昭 和 5 8 年 度	81, 397
	昭 和 5 9 年 度	64, 468
	昭 和 6 0 年 度	289, 045
	昭 和 6 1 年 度	261, 580
	昭 和 6 2 年 度	500, 028
	昭 和 6 3 年 度	870, 632
	平 成 元 年 度	1, 236, 757
	小 計	3, 303, 907
合 計		22, 098, 961

これらの補助金は、それぞれ項目ごとに一般会計と協定が結ばれ、20～30年間で一定金額を繰り入れする内容となっており、水道事業の財政運営には大きく貢献するものであるが、一般会計から見ると、負担を強いられるものであり、市全体の財政運営に少なからず影響を与えるものと言える。

一般会計からの補助金は、原則として法令や国の通達で定める基準により繰り入れられるものであるが、山瀬ダム建設費負担金に係る利子相当分以外の18,795,054円は、この基準に依らない、いわゆる基準外繰り入れとなっている。基準外繰り入れについては、平成14年度以降、新たな協定は結ばれていないため、現在の協定期間の終了に伴い、順次その金額は減少していく見込みとなっている。

④営業外費用

営業外費用の決算額は189,400,567円で、前年度に比較して7,283,256円（3.7%）の減となっている。この主な内容は、企業債償還金の支払利息であり、繰上償還を行ったことにより今後も減少が見込まれているが、当年度の金額は187,872,296円と、営業損益の黒字173,542,469円の108.3%に相当する額となっている。

⑤特別損失

特別損失は、過年度損益修正損の11,255円で、過年度分の過誤納水道料金に対する還付金である。前年度に比較して1,711,940円（99.3%）減となっているが、これは、前年度において、用途区分誤りにより過誤徴収した水道料金の還付があったためである。

(3) 鶴形簡易水道事業の損益の状況

(単位：円、％)

科 目		20年度 (A)	19年度 (B)	比較増減 (A)－(B)	増減率 $\frac{(A)-(B)}{(B)} \times 100$
営業収益	給水収益	7,057,314	7,187,797	-130,483	-1.8
	その他の営業収益	21,000	40,000	-19,000	-47.5
	計	7,078,314	7,227,797	-149,483	-2.1
営業費用	原水及び浄水費	1,120,000	1,552,224	-432,224	-27.8
	配水及び給水費	1,319,051	1,028,105	290,946	28.3
	業務費	493,157	763,203	-270,046	-35.4
	総係費	4,500	4,500	0	0.0
	減価償却費	2,657,242	2,651,478	5,764	0.2
	資産減耗費	0	0	—	—
	計	5,593,950	5,999,510	-405,560	-6.8
営業損益		1,484,364	1,228,287	256,077	20.8
営業外収益	受取利息	0	0	—	—
	他会計補助金	1,066,340	1,066,340	0	0.0
	雑収益	0	1,611	-1,611	皆減
	消費税還付金	0	0	0	—
	計	1,066,340	1,067,951	-1,611	-0.2
営業外費用	支払利息	1,938,800	2,279,958	-341,158	-15.0
	雑支出	567	0	567	皆増
	計	1,939,367	2,279,958	-340,591	-14.9
営業外損益		-873,027	-1,212,007	338,980	28.0
経常損益		611,337	16,280	595,057	3,655.1
特別損益		0	0	—	—
純利益		611,337	16,280	595,057	3,655.1

鶴形簡易水道事業の営業損益は1,484,364円の利益で、前年度に比較して256,077円(20.8%)の増となっている。営業外損益は873,027円の損失で、前年度に比較して338,980円(28.0%)損失額が減少している。これは、繰上償還を行ったことによる支払利息の減などによるものである。

この結果、当年度純利益は611,337円で、前年度に比較して595,057円(3,655.1%)の増となっている。

(4) 損益関係指標

水道事業会計における損益関係指標の年度別推移は、次表のとおりである。

(単位：％)

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	19年度 全国平均
営業収支比率	141.2	133.8	131.7	134.0	129.7	114.6
経常収支比率	107.7	103.9	102.8	103.7	101.0	107.6

◇営業収支比率

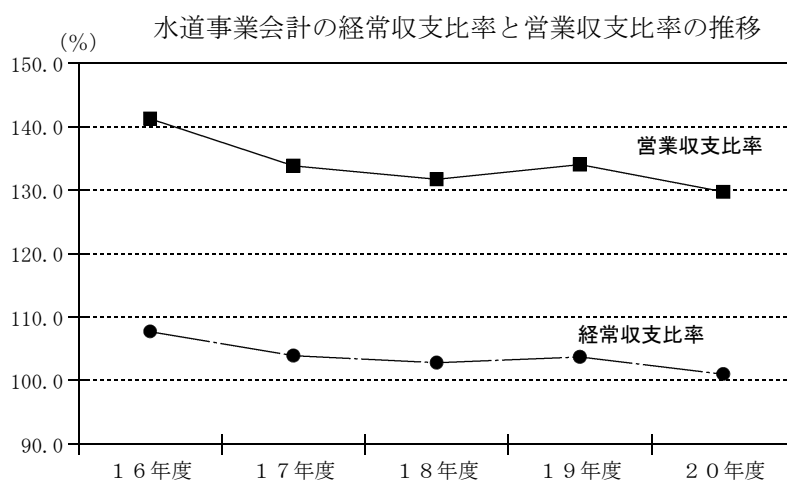
営業収支比率は、営業費用が営業収益で賄われているかを示すもので、100％で収支均衡となるが、100％を大幅に超える必要があると言われている。

◇経常収支比率

経常収支比率は総収支から特別損益を除いたもので、経常的な経営活動の結果を示すものであると同時に、財政構造の弾力性を見るものである。この比率が高いほど支払い能力が高いことになり、100％以上であるときは経常利益が発生していることを示す。また、営業収支比率との差が大きいほど、営業外費用の支払利息の占める割合が大きいことを示し、財政構造が硬直化していることを表している。

平成20年度の営業収支比率は129.7％、経常収支比率は101.0％で、前年度と比較して営業収支比率は4.3ポイント、経常収支比率は2.7ポイントそれぞれ低下している。当年度の営業収支比率は、平成19年度の全国平均を上回っているが、逆に経常収支比率は全国平均を下回っている。

これは、企業努力等により営業収益はある程度確保されているが、営業外費用のほとんどを占める支払利息の割合が、全国の類似団体と比べて大きくなっており、企業債の借入が経営を圧迫していることを示している。



(5) 給水原価と供給単価

(単位：円)

区 分		1 6 年度	1 7 年度	1 8 年度	1 9 年度	2 0 年度	1 9 年度 全国平均
水道事業	供給単価 A	167.21	167.16	167.01	167.04	167.49	167.65
	給水原価 C + D + E = B	168.74	174.31	176.51	175.33	180.05	175.65
	資本費 C	94.96	97.51	100.82	106.23	110.70	—
	給与費 D	16.50	19.82	18.20	13.61	9.73	—
	その他の費用 E	57.28	56.98	57.49	55.49	59.62	—
	販売利益 A - B = F	-1.53	-7.15	-9.50	-8.29	-12.56	-8.00
鶴形簡易水道事業	供給単価 A	—	—	150.40	147.99	148.56	—
	給水原価 C + D + E = B	—	—	177.40	170.46	158.58	—
	資本費 C	—	—	100.88	101.53	96.75	—
	給与費 D	—	—	17.36	6.38	0.00	—
	その他の費用 E	—	—	59.16	62.55	61.83	—
	販売利益 A - B = F	—	—	-27.00	-22.47	-10.02	—

(注) 消費税抜き、各項目とも有収水量 1 m³ 当たりの数値である。

給水原価は特別損失を含んでいない。資本費は (減価償却費 + 支払利息) ÷ 有収水量。

水道事業の供給単価は167.49円、給水原価は180.05円で、差し引き販売利益は12.56円のマイナスとなっているが、前年度に比較して、この「逆ざや」の幅が4.27円増加している。これは、濁り水対応に係る、料金水量の更正による有収水量の減少が主な要因である。

鶴形簡易水道事業の供給単価は148.56円、給水原価は158.58円で、差し引き販売利益は10.02円のマイナスとなっている。前年度に比較して「逆ざや」の幅が12.45円縮小している。

水道事業の供給単価と給水原価の推移

